

2025年度 推薦入学試験

藤女子大学 ウェルビーイング学部 食環境マネジメント学科

2024年11月16日(土) 10:00~11:30

小論文

*受験番号は、解答用紙の所定の欄に記入してください。

*答案作成のための下書きには、所定の下書き用紙を使用してください。

*試験終了まで退出できません。

小論文

以下の課題文を読み、持続可能な食生活に関する自らの考えを 800 字程度で述べてください。

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、17 の目標と 169 のターゲットから構成された国際目標である。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むべき普遍的なものであり、日本も積極的に取り組んでいる。

目標 12：持続可能な生産消費形態を確保する

目標 13：気候変動とその影響を軽減するため緊急対策をとる

農林水産省は、2023 年度のカロリーベースの食料自給率が 38% だったと発表した。カロリーベースの食料自給率は、基礎的な栄養価であるエネルギー（カロリー）に着目して、国民に供給される熱量（総供給熱量）に対する国内生産の割合を示す指標である。日本の食料自給率は、コメの消費が減少する一方で、畜産物や油脂類の消費が増大する等の食生活の変化により、長期的には低下傾向が続いており、2000 年代に入ってから概ね横ばい傾向で推移している。政府は 2030 年度には 45% まで引き上げるとする目標を掲げているが、下回る状況が続いている。国内自給率が 100% に近いコメの消費量を増加させることでカロリーベースの自給率を向上させることが可能だと思われる。しかし、農業従事者の高齢化、後継ぎの問題、作付面積の減少などにより、コメ不足が懸念される。さらに夏の猛暑でコメの収穫量が減少しており、高温耐性米の開発が進んでいる。このような農業と食を取り巻く環境の急激な変化の中で、すべての国民が十分な食料を入手できる食料安全保障を確立するために必要なことは何か、消費者としても考えて行動することが大切である。